

ぼくの森





やあ！
ぼくは、りす。

きみの住んでいる街の、となりの森に住んでいるよ。
今日は、ぼくの森を紹介するね。



シロツメクサとミツバチは、とってもなかよし。
いつも楽しそうにお話している。

歩くことのないシロツメクサに、
ミツバチが森のいろいろなニュースを届けてあげている。



この木では
次から次へと兄弟姉妹たちが生まれている。

近くに行くといつも
楽しげなおしゃべりや、くすくす笑いが聞こえるんだ。



これは、ほわほわボール。
これで遊ぶととっても楽しいのさ。

でもこれは、乱暴者には扱えないよ。
やさしくやさしく扱うのがコツ。

りすたちと小鳥たちとで、キャッチボールをする時もあるよ。
ちなみにりすは、手よりしっぽの方をよく使う。



ひらひらひらひら
ちょうたちが集まっている。

いや、そうではなく、
この花からちょうたちが生まれ、飛びたっていくのかもしれない。

ひらひらひらひら
ひらひらひらひら

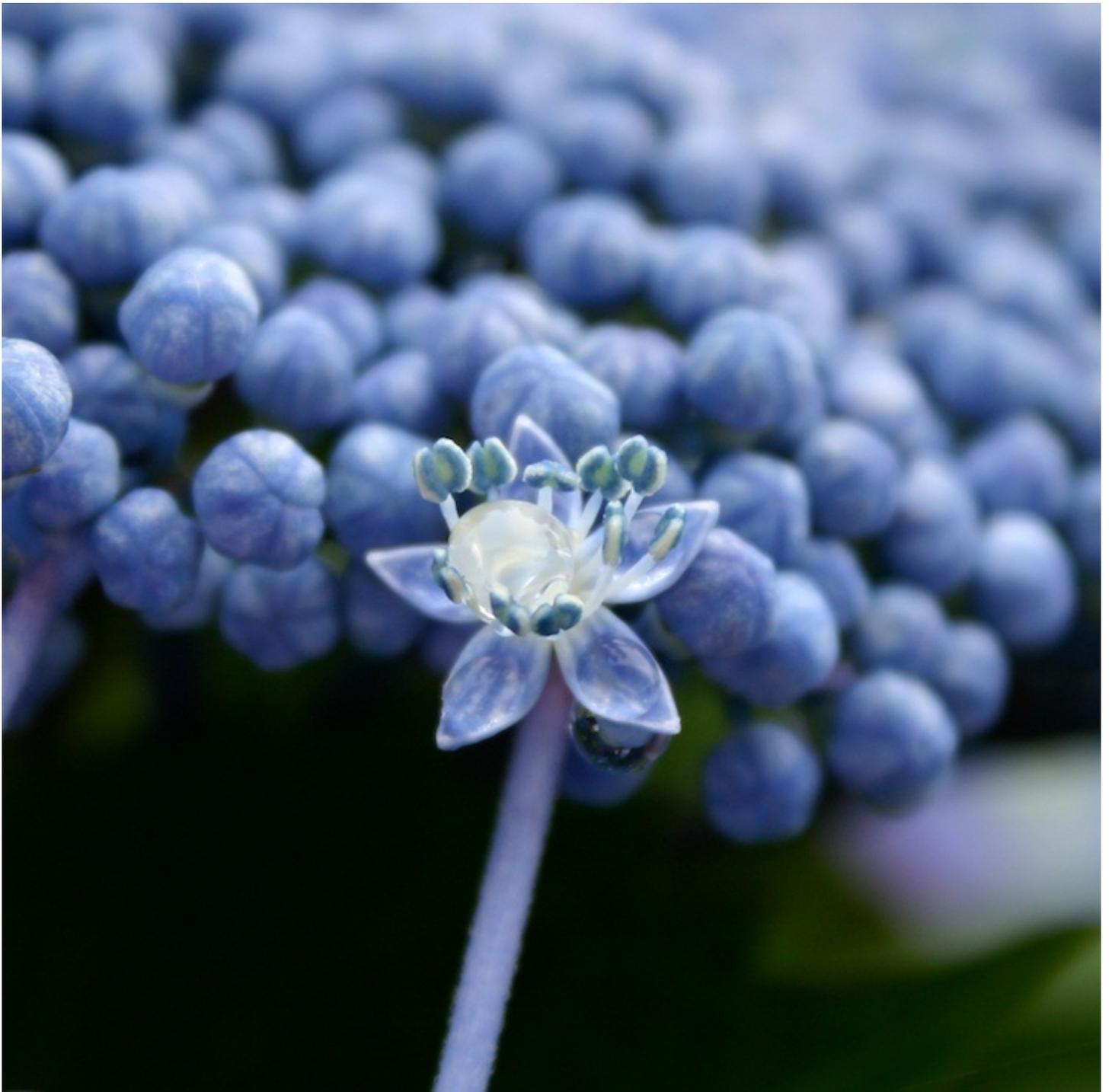
いつもぼくは
どちらなのかよくわからなくなってしまう。



香りが漂いはじると、
あ、雨が上がりそうだって気づく。

雨が、土や草の香りを引き出してゆくんだ。
仕上げは、一滴一滴のしずくで。

あたりが、すてきな香りでみちてゆく。
雨があがるちょっと前の時間が、ぼくは大好き。



雨あがり。
出来立ての宝石を見つけることもあるよ。

あまりにすてきなものをみつけると、
胸がどきどきと苦しくなってしまう…。



こんなティーカップで
午後のお茶はどう？

花の香りが加わって
お茶がますますおいしくなりそうでしょ。



おやつにラズベリーもあるよ。
葉っぱのお皿にのせて、ね。



そうそう、
森のはずれには、木が住んでいる。

木が住んでいるなんておかしいって？
でも、この木は家を持っているんだ。

嵐の時などに動物たちが彼を頼ってやってくると、
彼はあたたかく迎えてあげる。



夜に強い風が吹き荒れた、次の日の朝。
お星さまが落っこちていることがある。

暗くなり始めると、きらきらと光りながら空へ帰ってゆく。
時々、ぼくも一緒にのぼっていきたいと思う。



これはランプの木って言われている。
日中お陽さまの光をたくさん浴び、それを蓄えておく。

あたりが暗くなってくると、
やわらかな灯りをともしてくれるんだ。

遠くまで遊びに行きすぎた時なんかには、
家にたどり着くのにとっても役立つ。



今日は、ここまで。
なんだかねむくなってきちゃったから。

またなにかすてきなものをみつけたら
きみに報告するよ。

じゃあ、またね！